

削孔を対象とした岩盤分類（案）

■ 岩盤分類の考え方

岩盤削孔技術協会では、岩盤削孔のための岩分類を国土交通省で分類している土工施工に際しての岩分類表によって現在まで至っているが、削孔の実態を見ると特に硬岩部においては岩の硬さの程度により削孔速度やビット損耗等に大きな差が生じているので、硬岩部の岩分類の細分化を望んでいる。

そこで岩盤削孔技術協会では、「削孔を対象とした岩盤分類」に関する検討業務を建設機械化研究所（現：施工技術総合研究所）へ委託し、これを受けて建設機械化研究所では、「削孔を対象とした岩盤分類検討委員会（委員長：西松裕一東京大学名誉教授）」を設立し、①岩盤分類作成に当たっての問題点の抽出と調査、検討方針、②現場調査あるいは実験によるデータの検討、③岩盤削孔上の岩盤分類案の作成、等についての検討を行い、平成10年3月に「大口径岩盤削孔技術調査研究に係る岩盤削孔を対象とした岩盤分類検討報告書」を作成し、その後データを補充した要約報告書を平成12年6月に協会員に配布している。

要約報告書では、4工法のなかで硬岩掘削の施工実績が多いケーシング回転掘削工法についての岩盤分類と掘削時間の関係を国土交通省および（社）日本建設機械化協会の積算資料と並行して検討し、特に硬岩Ⅱについての分類を提案している。